

令和3年度 項目別の自己評価表（仙台総合ビジネス公務員専門学校）

1. 学校の教育目標

「専門教育」と「人間教育」の両立を目指す CAREER COLLEGE 菅原学園は時代の変化に即応し、今必要とされる資格、技能、技術を確実に取得できるよう専門教育に力を入れると共に「ハイオアシス」運動の徹底のもと、きちんと挨拶、返事のできる人材の育成、そして学内で掲げる努力目標である「時を守り」「場を清め」「礼を正す」を実践するべく学校全体で取り組んでいる。

このことは、授業への学生の真摯な取り組みともいえる出席率96%以上の実績にも表れている。

① 実学の実践

実学実践の中から自己学習能力を身に付けた人材養成を目指します。

実際に体験することを通じて現場で即戦力となりえる様々な技能、技術、理論を習得していきます。常に変化する社会の動向に対応できる行動力も身に付けていきます。

学んだことを現場で生かす大切さと必要性を学んでいきます。

② 人間性の向上

社会人として必要なマナーを身に付けた人材の養成を目指します。

人は多くの人との関係の中で初めて人になります。人間的交わりが少ないといわれる現代社会では自分の在り方を見つめる機会も非常に少ないと言えます。

その中で、職業現場を意識した実習や様々なボランティア活動は、コミュニケーション能力を高め豊かな人間関係構築に大きな影響をもたらしてくれます。

相手の立場に立ち考え、行動することができる人材を養成します。

③ 社会への貢献

社会に貢献できるリーダーシップを持った人材の育成を目指します。

集団に対して作用を及ぼす人、グループを活性化させる能力を持つ人、指導能力、統括能力のある人。そのような能力を持つ人をリーダーシップのある人と呼びます。

学内での横割りの関係から、縦割りの学年の垣根を越えた学生同士のかかわりを意図的に築いていきます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

財政基盤の安定を図るための最重要課題である新入生学生募集を成功させること

在校生の除退学率の軽減をはかること

出席率の管理を個人別、クラス別に計数化し授業の満足度等もアンケートすること

新入生募集のために学校パンフレット（紙媒体）はもちろんのこと HP 等の中でオンタイムに情報を提供できるシステムの構築を更に進めていく。

双方向の情報交換の必要性を感じることから SNS (SOCIAL NETWORKING SERVICE) の利用を深化していくことが入学希望者に対して適切な情報を提供できる方策と考える。

学費納入については、昨今の経済状況と東日本大震災や新型コロナウイルスの影響により厳しいものがあるが、菅原学園奨学金制度や日本学生支援機構による給付奨学金制度、入学時における授業料の

減免制度を周知していきたい。また、従来の学費納入制度を一人ひとりにあったものにしていくことも必要な要件であると考えている。

このことは入学後の除退学率にも大きく影響するものであり、次に掲げている出席率の向上が学校への満足度と相関関係を持つのではないかと考えるものである。各科、授業別に出席率を確認し、個人への指導に役立てており、今年度も95%以上の出席率を菅原学園全校で目標にしている。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の理念、目的、人材育成像、特色、将来構想などが学生保護者等に周知されているか	④	3	2	1
各科の教育目標、人材育成像は、科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

理念や学校教育目標をすべての教職員が理解し、知識・技術だけではなく「自己学習能力を持つ社会人」として必要な基本様式を身につけることを目標として心がけている。

フラワー業界、流通業界、公務員、経理職、事務職など、多様な業界や職種に必要となる人材を育成していることは社会的にも期待されている。

② 今後の改善方策

これからの社会ニーズに適した実践的な職業人の養成機関であることの認知度を上げるためにも今まで以上に企業との連携を図り、社会のニーズを把握し、社会で必要とされている最新技術等をカリキュラムに取り入れることで、教育の向上へ繋げる必要がある。

また、学生保護者に対して、高校訪問、出張授業やオープンキャンパス（全体会・保護者会）のみならず、Web サイトや SNS 等を利用して地道に学校の学習分野を分かりやすく知らしめる努力が継続的に必要であり、将来を見据え社会のニーズに合わせた学科編成等の提案も今後必要となる。

③ 特記事項

特になし

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、 有効に機能しているか	④	3	2	1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④	3	2	1
教務、財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
教育活動に対する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

学園経営会議が運営方針を策定し、業務規程により各種制度はしっかり整備されており、議事録を教員に自由に閲覧可能にし周知徹底している。

② 今後の改善方策

情報システム化等による業務の効率化を目的に、学籍管理や出席管理、学納金の入出金状況の確認を一括で管理が可能なシステムの導入を図る。学生向けにも、ペーパーレス及び効率化を図るため、学園ポータルサイトの準備を進め、求人票の閲覧、時間割、スケジュール、各種申請手続き等に対応を検討したい。

③ 特記事項

学則および規定集に各規定が定められている。

(3) 教育活動

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた科の就業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
関連分野の企業関連施設等、業界団体等の連携により、カリキュラムの作成見直し等が行われているか	④	3	2	1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる用件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するマネジメントが行われているか	④	3	2	1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	③	2	1
職員の能力開発のための研修が行われているか	4	③	2	1

① 課題

教育目標や教育人材像に基づいて、教育課程編成委員会で毎年カリキュラムやシラバスの検討・評価を行っている。しかし、連携企業や業界団体からの評価が不十分の為、評価やアドバイスをいただき、更なる「教育の質の向上」を図る。

業務に関する研修や一部の分野の研修には積極的に派遣しているが、関連分野の先端的な知識・技能等の研修に関しては更に力を入れていきたい。

② 今後の改善方策

授業評価に関して、学科による外部団体・企業に授業評価の依頼を検討する。また、学生自身による習熟度を評価する自己評価制度の導入も検討したい。

研修に関しては、先端的な研修、能力開発研修等の情報収集を積極的に収集し、積極的に参加を進めていく。新型コロナウイルス感染状況をふまえ、オンラインによる研修会が増えている中、学園内・外、研修会の実施や参加を積極的におこなっている。学生の多様性を尊重していくうえで、メンタルヘルス等の研修への参加も必要となる。

③ 特記事項

特になし

(4) 学習成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④	3	2	1

① 課題

就職率・資格取得率は、クラス担任が中心となり個人面談等で個々の状況を常に把握し、学生課、菅原学園キャリアサポートセンターと協力しながら学園全体でも向上に取り組んでいる。資格取得率に関しては、資格による取得率に差があり、まだまだ改善の余地はあると考えている。

卒業生の社会的な活躍は、教育課程編成委員会や学校関係者評価委員会等で出された意見を参考にしながら把握に努めている。

② 今後の改善方策

菅原学園キャリアサポートセンターと連携しながら、各種数値を上げていきたいと考えている。また、退学率低減のために、スクールカウンセラーとの個人面談を実施する。出席率や資格取得率の向上に関しては、非常勤講師も含めて、学生の情報を共有しながら現状分析を行いサポート体制を整える。卒業生と定期的に連絡をとり、現場での状況を把握し意見を取り入れる。また実習先や就職先に対して企業訪問など実施し関係性を深め、学生への指導や改善に努め、教育活動の仕組みを構築する。

③ 特記事項

特になし

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
進路就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
高校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課題

少人数制の利点を活かして、学生の入学から卒業までの各種支援を担当が中心となり行っている。ただし、学生の多様化により担任業務の増大し、求められているスキルも増えている。

新型コロナウイルスの影響で、就職活動をおこなう上で Web による説明会・面接が増加し、学科ごとに対応にバラつきある為、キャリアサポートセンターと連携しながら Web による指導が必要。

新型コロナウイルスの影響で、アルバイトが出来なかったり、両親の仕事に影響が出たりなど家庭急変により経済的に厳しい学生がいた。

② 今後の改善方策

担任だけではなく各部署との連携を強め、一人ひとりの課題（基礎学力不足、学習障害、経済状況等）を明確にして、対応できる支援体制の運用をしっかりと行う。カウンセラーや専門機関と連携しながら支援を行う。また、卒業生に対する支援組織をしっかりと運用することも大切である。

就職活動に際しての通信環境や PC 環境に対して、IT 委員会、キャリアサポートセンターと情報共有し、学生に有意な環境を設けたい。今後は、近年新型コロナウイルスの影響で、就職活動をおこなう上で Web による説明会・面接が増加し、学科ごとに対応にバラつきがある為、キャリアサポートセンターと連携しながら Web による指導が必要。

日本学生支援機構による新型コロナウイルス感染症助成金に申請し、担任より細目に案内を繰り返したことで対象となる学生へのサポートができた。学園として、QUO カードを学生へ提供し、学生より好評であった。

③ 特記事項

特になし

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

施設に関しては、建築後20年以上が経ち、東日本大震災も経験しているためしっかりした管理が必要である。避難訓練を行い、連絡網や備蓄について再検討が必要である。

新型コロナウイルスが教育環境に大きな影響を与えていることから、空気の循環を目的に全教室にサーキュレーターを設置。今後も感染対策を継続するために環境整備、備品の準備が必要となる。

② 今後の改善方策

施設の不具合をしっかりと確認し、今後の長期修繕及び設備更新計画を策定する。もう一度、防災体制を確認と見直しを図り周知徹底を行う。

③ 特記事項

特になし

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
学生募集活動は、適性に行われているか	④	3	2	1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

入学相談室を中心に学校外の広報活動として進路ガイダンス、模擬授業、会場ガイダンスなどを実施している。学校内の広報活動として、オープンキャンパス、個別相談会を行っている。コロナ禍の状況のなか、密を防ぐために、来校希望者に対して、土、日、祝日に個別相談会を実施し、来校不要な Zoom による個別相談会、LINE による個別トークを実施。

学納金は、在学生への教育支援、教育施設のための費用として、収支のバランスを考えながら設定されている。しかし、入学生減により学納金支援策の縮小も考えられる。

② 今後の改善方策

広報活動として「Web サイト」「SNS」等を利用して、教育内容、成果を提供するために Web サイトのタイムリーな更新を行い、オンラインオープンキャンパスといったオンラインを使った策を考える必要がある。

③ 特記事項

特になし

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適当に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

現時点において財務的に大きな問題はないが、震災で改修した目に見える箇所から今後は配管等も含めた建物内の改修が今後必要になった際に、ある程度の改修費用が必要となる。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

「個人情報保護規程」を定めて、教職員及び学生に周知している。しかし、教職員に対する研修や学生に対する教育が不足している部分がある。

学校全体の自己評価による改善策については不十分と考えている

② 今後の改善方策

自己評価に関しては、定期的な評価と振り返りを組織的におこない改善を目指す

③ 特記事項

特になし

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

学生の授業の一環として販売実践も兼ねて、商品を安く地域の方に提供している。

新型コロナウイルスの影響により、ボランティア活動は無かった。

② 今後の改善方策

コロナ禍でも実施できるような、オンラインなどを利用した地域に密着した貢献を行えるように体制づくりを行う。

③ 特記事項

特になし。